

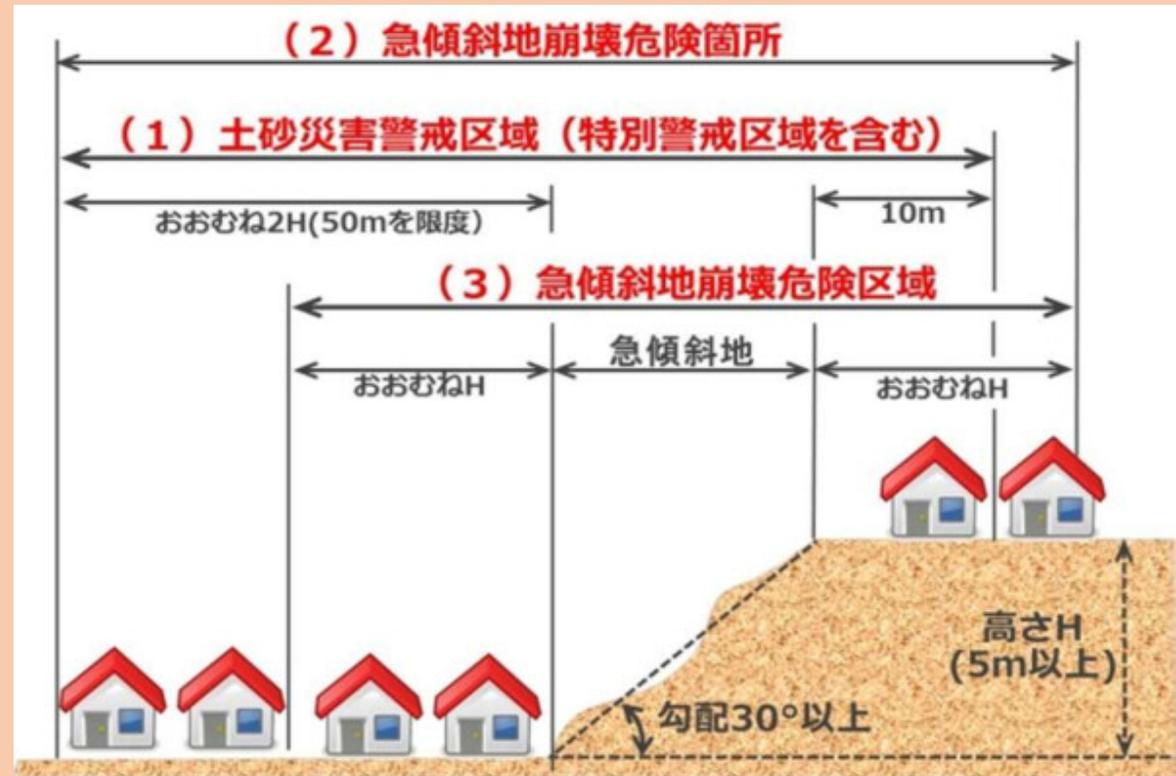
6月1日～7日は「がけ崩れ防災週間」

「がけ崩れ防災週間」とは、土砂災害に関する国民の理解と関心を高めるために、土砂災害に関する防災知識の普及と警戒・避難体制の整備を促進するための週間です。土砂災害による人命、財産の被害を防止することを目的とし、がけ崩れなどが発生しやすくなる梅雨時期を前とした6月初旬に設定され、1973年に建設省（現：国土交通省）により定められました。

「がけ崩れ」とは、地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響で急激に斜面が崩れ落ちて起こる災害です。人家の近くで起こると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。「がけ崩れ」は前触れとして、小石がバラバラと落ちてきたり斜面から水が噴き出したりすることがあります。

「がけ崩れ」による被害のおそれのある個所を「急傾斜地崩壊危険箇所」と呼び、地形的基準が定められています。傾斜地の高さ(H:5m以上)によって危険な区域が定められていますので、お住まいの地域がどのような環境なのか、土地の高低差はどの程度なのかをハザードマップで確認し、危険な個所を把握しておきましょう。併せて避難場所もチェックしておく、いざというときに落ち着いて行動することができます。

〈防災士 荻野勝也〉



区域指定の地形基準 (出典: 東京建設局)